

ひと  
人間をつくる  
体をつくる  
医学・医療福祉学をきわめる

学校法人  
**川崎学園**

*Organization Brochure 2023*

川崎医科大学  
川崎医科大学附属病院  
川崎医科大学総合医療センター  
川崎医療福祉大学  
川崎医療短期大学  
川崎医科大学附属高等学校  
幼保連携型認定こども園 かわさきこども園  
専門学校 川崎リハビリテーション学院

学校法人 川崎学園の理念  
Kawasaki Gakuen Philosophy

ひと  
人間をつくる  
体をつくる  
医学・医療福祉学をきわめる



学校法人 川崎学園 理事長  
**川崎 誠治** Kawasaki Seiji

### ごあいさつ

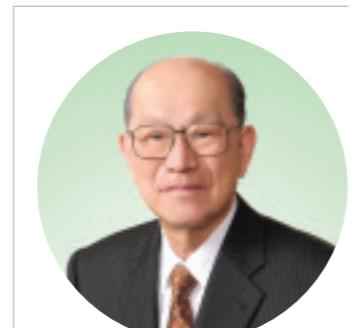
学校法人川崎学園は、1970（昭和45）年、倉敷市松島のこの地で、創設者 川崎祐宣の「人間をつくる 体をつくる 医学をきわめる」という建学の理念のもと、その一歩を踏み出しました。

川崎医科大学、同附属高等学校、同附属病院、同総合医療センター、同高齢者医療センター（2023年9月開院予定）、川崎医療福祉大学、川崎医療短期大学、かわさきこども園、専門学校川崎リハビリテーション学院を有する医学・医療福祉学の総合学園となった現在も、「病院は患者さんのためにある」、「学校は学生さんのためにある」という創設者の思いは、搖るぎないものとして受け継がれています。この半世紀の間に卒立っていった約47,000人の卒業生は、受け継いだこの思いを胸に、全国各地の医療福祉の分野で活躍しています。

学園の理念、「人間をつくる 体をつくる 医学・医療福祉学をきわめる」のもと、創設者が必要性を説いた「医療福祉」をさらに充実・深化させるべく、学園一丸となりさらなる挑戦を続けてまいります。

当学園は、開設以来、各施設の緊密な連携のもと、真に人間性豊かな良き医療福祉人の育成を最大の使命とし、医療福祉と教育を通して社会へ貢献してまいりました。

今後も医学・医療福祉学に奉仕する人材を育成する総合学園として、その充実発展に貢献し、皆様と共に生きる学園づくりをめざしてまいります。



学校法人 川崎学園 学園長  
**川崎 明徳** Kawasaki Akinori

学校法人 川崎学園の基礎 建学の理念

ひと  
人間をつくる  
Liberal Humanity

体をつくる  
Sound Body

医学をきわめる  
Profound Knowledge

1973年の川崎医科大学 校舎棟落成に際し、『落成記念誌』で学園創設者 川崎祐宣が建学の理念について著したものです。

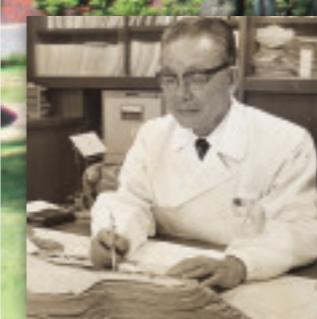
良き医師であるためには、常識を備え、良心的で温かみがあり、信頼される人でなければならない。  
そのためには德育が第一に重視されるべきである。

医師は患者に親切で、忠実で、犠牲的であることが強く求められている。また、それをなし得るだけの体力を備えることを要する。患者に十分な奉仕ができるゆとりを持つための体力が必要である。

病気に悩む人々の健康を回復させ、また、病気をしないで健康を永く享受できるようにするために、日進月歩の医学的知識と技術を持ち、患者や社会に感謝される医師たるべく、医学の知育及び実技教育の重要性がここに強調される。



建学の父  
**川崎 祐宣**  
Kawasaki Sokenobu



明治37（1904）年、鹿児島県横川村（現在の霧島市）に生まれた川崎祐宣は、第七高等学校造士館を経て岡山医科大学へ進学。卒業後、岡山で外科昭和医院を開業。昭和25（1950）年に私財を寄付して財團法人 川崎病院（現在の川崎医科大学総合医療センター）を設立しました。また、社会福祉事業にも力を注ぎ、昭和31（1956）年財團法人 旭川荘を創設しました。医の道一筋に歩んだ川崎祐宣は、「多くの信頼される良医を世に送り出したい」という理想を掲げ、昭和45（1970）年に学校法人 川崎学園を設立。同年、医科大学、附属高等学校を開学。同48（1973）年に附属病院を開設。また、医師だけでなくメディカル・スペシャリストの養成機関として、同年、医療短期大学を、続く昭和49（1974）年にリハビリテーション学院を開設しました。そして、平成3（1991）年、「医療福祉」の概念に立つ教育機関として世界で初めての4年制大学である、医療福祉大学を開学しました。川崎学園設立後、四半世紀にわたって川崎祐宣がその人生を傾注し、医学・医療福祉学の総合学園としての礎を築きました。

### もくじ Contents

- 01 …… 川崎学園の理念／ごあいさつ
- 02 …… 建学の理念／建学の父
- 03 …… 川崎学園全景
- 05 …… 沿革
- 06 …… 川崎学園の組織
- 07 …… 川崎医科大学
- 09 …… 川崎医科大学附属高等学校
- 11 …… 川崎医科大学附属病院
- 15 …… 川崎医科大学総合医療センター
- 19 …… 川崎医療福祉大学
- 23 …… 川崎医療短期大学
- 25 …… 専門学校 川崎リハビリテーション学院
- 27 …… 幼保連携型認定こども園 かわさきこども園
- 28 …… 現代医学教育博物館

- 29 …… 川崎学園と旭川荘
- 30 …… 生涯教育 KAWASAKI CLUB
- 31 …… 学園施設紹介
- 33 …… 国際交流



# 医学・医療福祉学の 総合学園として 未来へと 歩み続けます。

学校法人川崎学園は、6つの教育施設と3つの大学病院を有し、教職員4,800余名及び約6,000名の学生が学ぶ、医学・医療福祉学の総合学園です。

川崎学園の創立は1970年ですが、その母体は学園の創設者川崎祐宣が1938年に岡山市に開業した外科昭和医院(後に、現在の川崎医科大学総合医療センターの前身となる、川崎医科大学附属川崎病院へ発展)です。「病院は患者さんのためにある」「年中無休 昼夜診療」を掲げ、病気だけでなく暮らしにまで心を配り診療しました。創設者は、医療だけでは救えない肢体不自由児や知的障がい児のための施設(現 社会福祉法人旭川荘)も開設しています。「医療と福祉は一体でなければならない」という「医療福祉」の考えです。

1970年、医師不足や医学教育の荒廃を憂い、「良き臨床医」を育てようと、「人間をつくる体をつくる医学をきわめる」を建学の理念として、倉敷市に川崎医科大学、同附属高等学校を開学。さらに、川崎医科大学附属病院を開院するとともに、「チーム医療の担い手」育成のため川崎医療短期大学、

川崎リハビリテーション学院を開学し発展を続けました。

第2代理事長に川崎明徳が就任し、これからの時代を見据え、1991年に医療と福祉を融合した“医療福祉”的概念に立つ教育機関として川崎医療福祉大学を世界に先がけて開学。我が国ではじめての医学・医療福祉学の総合学園へと新たな歩みを進めました。

2000年からは、医科大学と同附属病院の全面的な増改修工事に着手し、2010年までの11年間にわたる工事で、最新の教育・診療・研究環境を整えました。

第3代理事長 川崎誠治のもと、附属川崎病院の長年の念願であった新築移転が実現し、病院名も改め、2016年12月川崎医科大学総合医療センターとして開院しました。また、2018年4月には、幼保連携型認定こども園のかわさきこども園が開園しました。

2020年に創立50周年を迎えた川崎学園は、「これまで関わった全ての方々への感謝の思いを忘れることなく、目まぐるしく変化する時代や環境の中でも、かわらぬ思いを未来につないでいく」という決意を新たにしました。

2022年4月、川崎医療短期大学は旧附属川崎病院跡地で新校舎が利用開始となり、開学以来培ってきた教育実績と伝統を継承し、新たな学びをスタートしました。そして2023年9月には、在宅療養を支援する病院として、川崎医科大学高齢者医療センターが開院します。隣接する総合医療センター、高齢者医療センター、医療短期大学の3施設は、「川崎学園岡山キャンパス」として新たな教育・診療・研究の拠点となります。

川崎学園は、これからも更なる飛躍と一層の地域社会への貢献をめざして着実な歩みを進めていきます。

# 沿革

## History



2022(令和4)年4月  
川崎医療短期大学 新校舎棟利用開始



2018(平成30)年4月  
かわさきこども園 開園

2016(平成28)年12月  
川崎医科大学附属川崎病院 新病院  
川崎医科大学総合医療センター 開院

2015(平成27)年3月  
川崎学園総合グラウンド 竣工

2012(平成24)年3月  
川崎誠治 学校法人川崎学園  
第三代理事長に就任

2004(平成16)年4月  
川崎祐宣記念講堂 竣工

1996(平成8)年  
4月 川崎医療福祉大学 大学院 設置  
6月 川崎学園創設者 川崎祐宣 逝去

1988(昭和63)年3月  
川崎明徳 学校法人川崎学園 第二代理事長に就任

1979(昭和54)年10月  
川崎医科大学附属病院 救命救急センター 開設

1976(昭和51)年4月  
川崎医科大学 大学院 設置

1974(昭和49)年4月  
川崎リハビリテーション学院 開校

1973(昭和48)年4月  
川崎医療短期大学 開學  
12月 川崎医科大学附属病院 開院

1970(昭和45)年3月  
学校法人川崎学園 設立  
川崎祐宣 初代理事長に就任

1960(昭和35)年3月  
総合病院川崎病院 開設

1956(昭和31)年6月  
財団法人旭川荘 創設

1950(昭和25)年8月  
財団法人川崎病院 設立

1939(昭和14)年2月  
外科川崎病院 開院 (現 岡山市中山下)

1938(昭和13)年2月  
外科昭和医院 開業 (岡山市富田町)

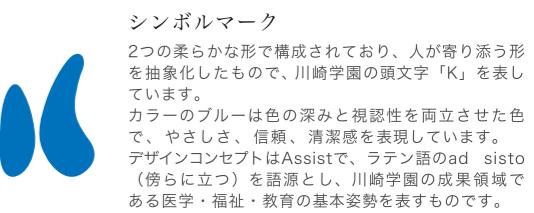
2023(令和5)年9月  
川崎医科大学高齢者医療センター 開院予定



2020  
川崎学園  
創立50周年

# 川崎学園の組織

## Organization



学校法人 九曜学園・専門学校川崎リハビリテーション学院は川崎学園内にあり、川崎学園と緊密な連携のもと運営を行っています。

在学生	川崎医科大学	833名
	川崎医療福祉大学	4,152名
	川崎医療短期大学	416名
	川崎医科大学附属高等学校	82名
	川崎リハビリテーション学院	199名
教職員		4,829名
卒業生	川崎医科大学	4,929名
	川崎医療福祉大学	22,409名
	川崎医療短期大学	16,122名
	川崎医科大学附属高等学校	1,756名
	川崎リハビリテーション学院	2,140名
KAWASAKI CLUB会員	(2022年5月1日現在)	53,932名

# 川崎医科大学

医学部 入学定員126名

大学院 入学定員25名



良医育成をめざして

## 01 全人的医療を行うことができる良医育成のための実践に根ざした医学教育

本学は、戦後初となる新設医科大学として1970年に開学しました。創設者は、当時の医師不足と全人的配慮の少ない医学教育を憂慮し、患者さんに信頼される人間性の豊かな良医を育成するという強い想いを抱き、医科大学設立を決定しました。開学以来、良医育成のための先進的な取り組みである「臓器・機能別のブロック単位」での授業や客観的臨床能力試験OSCEの医療面接などを他に先駆けて積極的に導入するとともに、総合臨床医学や救急医学など実地臨床を重視した教育を実践してきました。

本学は医療福祉において必須となっている多職種連携のリーダーとなり、時代の要請に応えることができる、地域から信頼される良医の育成に取組んでいます。

川崎医科大学 学長 砂田 芳秀 *Sunada Yoshihide*

本学は設立以来、教職員が一丸となって先進的な医学教育、医療技術教育、高度な研究、社会貢献、国際交流に取り組んできました。これまで4,900余名の卒業生を社会に送り出し、卒業生は医師として幅広く活躍しています。

本学は、少子高齢化や医師・診療科の偏在、医療の国際化など激変する社会の要請に応えるために、世界基準の医学教育で「良医」を育成し、医学・医療の進展に向けた研究成果を世界に発信し、最先端の医療を地域の方々へ提供し続けていくことに尽力しています。

### 建学の理念

#### ひと 人間をつくる 体をつくる 医学をきわめる

##### 使命

本学は、良医を世に送って社会福祉に貢献し、医学の進展に寄与するため次の目標の達成に努める。

- 人間愛を基調とする知性と道徳性をかん養して、医の倫理を体得すること。
- 重大な使命と責任を果たすため、強健な意志と体力を養うこと。
- 近代医学の深奥を究め、進んで新分野を開拓すること。

##### 教育目標

このような医師を育てます。本学が育成する「良医」とは

- 患者から信頼される、人間性豊かな医師
- 幅広い守備範囲の知識と技能を持ち、広く国民に信頼される有能で心優しい医師
- 全人的医療ができるだけでなく、専門性を持った医師
- 研究マインドを持ち、新しい医学に貢献できる医師

## 02 豊かな人間関係を築き 仲間の大切さを学ぶ全寮制

「人間をつくる」の理念実現の第一歩として、1学年の全学生に寮生活を義務づけています。学生寮での友人との共同生活が、豊かな人間性や協調性を身につけるための大きな力となり、また学生寮が生涯の友を得る場所ともなっています。



## 03 先端医学・医療の研究拠点

高度化、多様化する医学・医療に対応するため、中央研究センターに5つのユニットを配置し、共同研究・研究活動の拠点としています。ここでは各種研究機器が設置され、共同利用体制が整えられており、専門技術を有する経験豊かな技術員・研究補助員が研究支援を行っています。学内では共同研究を推進する「プロジェクト研究」を奨励しており、科学研究費助成事業や日本医療研究開発機構（AMED）から研究費の助成を受けて、国際的な研究を目指しています。

### 川崎医科大学のあゆみ

- 1968年 財団法人「学校法人川崎学園」設立準備期成会設置認可
- 1970年 3月 学校法人川崎学園設立認可 川崎医科大学設置認可 4月 川崎医科大学開学、校舎および学生寮竣工 5月 第1回入学式 6月 開学記念式
- 1972年 3月 学生寮竣工(生坂) 6月 校舎棟竣工(松島)
- 1973年 10月 研究センター(現中央研究センター)設置
- 1976年 3月 第1回卒業式 4月 大学院設置
- 1977年 9月 女子学生寮竣工(松島)
- 1981年 3月 大学院第1回学位記授与式 5月 現代医学教育博物館開館
- 1997年 4月 男子学生寮竣工(松島)
- 2006年 2月 共用試験(CBT・OSCE)の正規導入
- 2007年 3月 校舎棟増築竣工 9月 臨床教育研修センター開設
- 2009年 4月 大学基準適合認定(大学基準協会)
- 2020年 6月 医学教育分野別評価適合認定(日本医学教育評価機構)

卒業生数 4,929名(2022年5月1日現在)

# 川崎医科大学附属高等学校

全日制 普通科 入学定員35名



## 01 医科大学と連携して多彩な教育プログラムを実施

創設者川崎祐宣の「人生において感受性豊かで人格形成が行われるに最適な高校時代に、理想的な全人教育を行い、良医となる基礎を育成したい」という強い思いにより設立されました。開校当初より、豊かな人間性と思いやりの心を持った良医の基礎を育成するため、全寮制、独自の教育プログラムによる全人教育を実施しています。

### ドクターロード

川崎医科大学との連携によるプログラムを実施しています。

医師へのインタビューや医科大学研究室での体験実習、医科大学で講義を受けるメディカルスクール・アワーなど、高校生のうちから医学の一端に触れる「ドクターロード」を実施しています。テーマスタディは、その集大成です。

### テーマスタディ

アクティブラーニングで将来のための大変な基礎力、問題発見・解決能力を身につけます。

グループごとに研究テーマを決め、主体的に調査・研究を行い、その成果を発表する「テーマスタディ」を実施しています。



### 全寮制

全員が寮で3年間生活する中で、生徒は規則正しい生活習慣や自律心を養い、かけがえのない友情や思いやりの心を育んでいきます。  
寮専属の職員が、一人ひとりの生活全般を温かく見守り、支えていきます。



川崎医科大学附属高等学校 校長  
竹田 義宣 Takeda Yoshinobu

医師になって、病気で悩み苦しんでいる人たちを救いたい。  
地域医療に貢献したい。医学を研究したい。本校はこのような若者の夢を実現するための学校です。卒業生は、全国各地で医学の研究や教育、医療に活躍しています。

四季の花々が咲き、鳥のさえずりや虫の音色が響き渡る自然、充実したスタッフと整備された施設設備、一人ひとりを生かし伸ばす少人数教育、自主自律の精神と協力する心、思いやりの心などを育てる全寮制教育、医科大学や附属病院などとの連携によるキャリア教育など、恵まれた環境の中で特色ある教育を展開しています。  
全国から集まった生徒は、自然に恵まれた生坂のキャンパスで勉学や部活動に励み、社会に貢献できる医師をめざして、切磋琢磨しています。

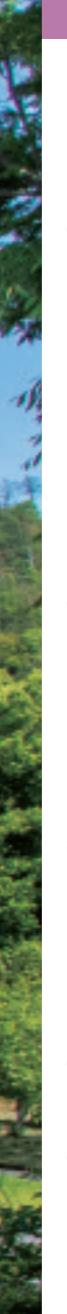
### 建学の理念

## ひと 人間をつくる 体をつくる 学問をきわめる

人間教育と勉学と体づくりを織り交ぜた特色ある教育を行い、  
良医を目指すにふさわしい知徳体の基礎を育成する

### 川崎医科大学附属高等学校の特長

- 全国で唯一の医科大学附属高校
- 責任を持ってしっかり育てる全寮制
- 確かな学力と豊かな人間性を育む全人教育
- 川崎医科大学への特別な推薦入試制度
- 充実の施設・教員などの優れた教育環境
- 一人ひとりを大切に育てる少人数教育



### 川崎医科大学 附属高等学校の あゆみ

- 1970年  
3月 川崎医科大学附属高等学校設置認可
- 4月 川崎医科大学附属高等学校開校（現川崎医療短期大学）
- 6月 第1回入学式 開学式
- 1971年  
3月 校舎および寄宿舎完成（生坂）
- 1973年  
3月 第1回卒業式
- 2012年  
2月 新女子寮竣工
- 2017年  
4月 新男子寮竣工



## 02 充実のカリキュラムと指導で医師をめざす学力を育成

### カリキュラム（教育課程）

医学部での学修に対応したカリキュラムを実施します。

将来医学を学ぶ上での基礎となる数学、理科（物理・化学・生物の3科目の学力育成）、英語に重点を置いています。数学では問題演習を、理科では実験を多く取り入れ、英語では読む・書く・聞く・話す能力を総合的に育みながら、より高い学習成果を実現していきます。

### 学習指導

少人数によるきめ細かな指導で、一人ひとり確実に理解させます。

チームティーチングや習熟度に応じた授業や補習、また放課後や夜間などをを利用して個別指導を行っています。



## 03 目標はもちろん全員進学、そして次のステップへ

開校以来の  
川崎医科大学への  
進学率  
**90.2%**  
(2021年度卒業生まで)

医学部への進学を目標とし、川崎医科大学への高い進学率を達成しています。必要な学力をしっかりと育成するとともに、受験対策にも万全を期しています。  
川崎医科大学では、本校のための推薦入試制度を設けています。

# 川崎医科大学附属病院

特定機能病院

病床数 1,182床

入院延患者数 202,264名(2021年度)

外来延患者数 404,794名(2021年度)



## 01 特定機能病院として

川崎医科大学附属病院は、高度医療を提供する能力、高度医療技術開発および評価を行う能力、高度医療に関する研修を実施する能力が認められ、1994年、特定機能病院に承認されました。以来、最新鋭の機器・設備と多職種で構成される専門スタッフを備え、先進医療や難病への取り組みをはじめとする高度な医療の提供、治験や臨床研究など高度な医療技術の開発・評価および専門的な人材の育成等により地域医療に貢献しています。

### 安全医療の提供

医療安全管理部を中心に、病院全体で医療安全に取り組んでおり、医療安全パトロールや、医療事故分析と対策をニュースレターで啓発するなどの活動を行っています。また、全国に先駆けて院内感染対策委員会やインフェクションコントロールチーム（ICT）を作るなど、院内感染対策にも積極的な取組を行っています。



### 先進医療および治験の推進

大学病院・特定機能病院に求められる高い社会的使命と先進医療および治験を推進し、患者さんへの提供に努めています。特に、「ウイルスに起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断（PCR法）」などの先進医療や「免疫調節薬を用いた肺がん治療」、「脳卒中後の歩行障害に対するNIRSニューロリハシステムを用いた医師主導治験」などの医師主導治験を実施し、中でも「ミトコンドリア病MELAS患者のタウリン療法」では、タウリンが日本で初めて治療薬として保険適用されました。



川崎医科大学附属病院 病院長

永井 敦 Nagai Atsushi

川崎医科大学附属病院は1973年の開設以来、地域基幹病院として患者さんへの最高の医療の提供に努めています。1994年には高度の医療を提供する特定機能病院の承認を受け、高度の医療技術の開発・研修ならびに高度な医療安全の確保に努めています。地域がん診療連携拠点病院の指定や日本医療機能評価機構の認定も受け、日々充実した医療の提供に邁進しています。学園創設者であり自ら初代病院長を務めた川崎祐宣が掲げた、「医療は患者のためにある」の信条が本院の基本理念であり、この方針を貫くために、全職員が一丸となり努力しています。また、「24時間いつでも診療を行う」という理念は当初から救急医療を重視してきた原点もあります。当院は高度急性期病院として、また特定機能病院として、地域の病院、診療所との連携を深めつつ、高度で良質な医療を提供していく責務を果たしてまいります。

### 病院理念

- 医療は患者のためにある
- すべての患者に対する深い人間愛を持つ
- 24時間いつでも診療を行う
- 先進的かつ高度な医療・教育・研究を行う
- 地域の医療福祉の向上と医療人の育成を行う

「医療は患者のためにある」の病院の理念のもと、近代医学の粹と、温かい愛情と、快適な設備を完備して、患者の信頼にこたえる病院

### 診療科

#### 総合外来・救急外来

総合診療科  
救急科  
臨床感染症科

#### 腎臓腫瘍科

臨床腫瘍科

#### 循環器・呼吸器センター

循環器内科  
呼吸器内科  
心臓血管外科  
呼吸器外科

#### 腎尿路・血液・糖尿病センター

腎臓内科  
泌尿器科  
血液内科  
糖尿病・代謝・内分泌内科

#### 脳神経センター

脳神経内科  
脳卒中科  
脳神経外科

#### 皮膚・運動器センター

皮膚科  
リウマチ・膠原病科  
整形外科

#### 心療科

心療科

#### 小児医療センター

小児科  
小児外科

#### 女性医療センター

産婦人科  
乳腺甲状腺外科

#### 皮膚・運動器センター

皮膚科  
リウマチ・膠原病科  
整形外科

#### 放射線科

放射線科（画像診断）  
放射線科（治療）  
放射線科（核医学診療）

#### リハビリテーション科

リハビリテーション科

#### 消化器センター

消化器内科  
消化器外科

#### 感觉器センター

眼科  
耳鼻咽喉・頭頸部外科  
歯科・口腔外科

#### 麻酔・集中治療科

麻酔・集中治療科

#### 放射線科

放射線科

#### 健康診断センター

健康診断センター

### 災害拠点病院

1997年に災害拠点病院に指定され、災害発生における救護班派遣や救援救護の訓練を実施し有事に備えています。また、当院ではDMAT（災害派遣医療チーム）があり、災害時に医療支援を行っています。



## 川崎医科大学附属病院のあゆみ

1973年 12月 川崎医科大学附属病院開院	
1979年 10月 救命救急センター開設	
1981年 4月 総合診療部開設	
1994年 3月 高度救命救急センター認可 4月 特定機能病院承認	
1997年 1月 災害拠点病院 (地域災害医療センター) 指定	
2001年 4月 ドクターヘリ運航開始	
2002年 8月 西館棟竣工	
2005年 4月 日本医療機能評価機構認定施設（一般病院2）認定	
2007年 9月 臨床教育研修センター開設	
2008年 2月 地域がん診療連携拠点病院指定	
2009年 3月 北館棟竣工	
2010年 11月 本館棟・救命棟改修工事竣工	
2012年 3月 岡山県認知症疾患医療センター（地域型）指定	
2016年 7月 遺伝診療部開設 (2023年1月～遺伝診療センター)	
2018年 3月 がんゲノム医療連携病院指定	
2020年 1月 ISO15189認定 2月 がんゲノム医療センター開設 3月 公認心理師法第7条第2号施設認定 4月 良医育成支援センター開設	
2021年 3月 ハイブリッド手術室開設 6月 日本医療機能評価機構認定施設（一般病院3）認定	
2022年 4月 臨床感染症科開設	

## 最新の設備と安心・安全な高度医療

Kawasaki Medical School Hospital

02

### 患者さんに24時間いつでも迅速かつ最高の診療を

救急診療体制は地域医療の中核として小児科も含めた初期救急、二次救急医療はもとより近隣県を含めた広域の三次救急医療をカバーしており24時間体制となっています。

#### 高度救命救急センター

国・県・大学が三位一体となり、岡山県で最初に高度救命救急センターを開設しました。一般的な重症救急患者に加え、熱傷、中毒などより高度で特殊な治療を要する重症患者の収容、治療を行っています。また、救急専門医を中心に小児科を含む全科の医師がバックアップする体制で専門性の高い救急医療体制を取って、地域救急医療に貢献しています。

2021年の救命救急センターの充実段階評価で最高ランクのS評価を得ています。



### 03 安全で専門的かつ最高水準の医療提供体制

#### ハイブリッド手術室

難易度の高いカテーテル治療や、手術中に透視画像を必要とする手技など高度な医療をはじめとする様々なニーズに対応可能なハイブリッド手術室を設置しています。

当手術室で行う手技の中でも経カテーテル大動脈弁置換術は、最新の設備や先進の技術、緊急時の開胸手術へのスムースな移行が可能な施設でのみ施行できる特殊な手術法で、心臓血管外科、循環器内科、麻酔・集中治療科の医師と看護師、臨床工学技士、放射線技師がチームとなって治療を行う高難度かつ低侵襲の治療法です。

#### 脳卒中医療

全国の大学病院に先駆け、脳卒中医療教室を開設しました。専用のホットラインを設け、「t-PAを用いた経静脈的血栓溶解療法」などで顕著な成績を収めています。

#### 急性心疾患医療

循環器内科ホットラインを設け、24時間対応で緊急カテーテル検査やインターインション治療を行っています。

#### 最先端装置の導入

中国地方初のがんに対する放射線治療装置のラディザクト(Radixact)が当院に導入されています。強度変調放射線治療、画像誘導放射線治療、定位放射線治療などの高精度放射線治療を高いレベルで施行可能です。治療効果の向上と副作用の低減が期待でき、前立腺がん、頭頸部腫瘍、肺がんに導入しており、順次拡大予定です(2022年7月現在)。

また、整形外科での人工膝関節置換術に際し、ロボット(ROSA: RObotic Surgical Assistant)が導入されています。個人ごとに異なる膝のバランスを評価測定した後、もっともバランスのとれた位置にインプラントの設置を誘導することができるため、患者さん一人ひとりに合わせた手術が可能となっており、満足度がさらに向上しています。



## 04 医療教育・研修

全人的医療のできる医療人を育成します。

教育病院として、医学生の臨床教育と学習の場でもあり、研修医の臨床研修、レジデントとして専門医になるための修練も行っています。また、看護師などメディカルスタッフを志す学生の実習の場として、年間約3,000名の学生を受け入れています。さらに、県内外や海外からの研修や、救急救命士の研修の場ともなっています。

#### 良医育成支援センター

医師の育成、支援に特化した良医育成支援センターを設置し、初期研修医、レジデントの実践的・効果的な研修・育成を行っています。

#### 臨床教育研修センター

当院のみならず、医師、看護師、メディカルスタッフ、医療系学生など全ての医療関係者が利用できます。全国でも類を見ない模擬病棟を設置し、多種のシミュレータ、医療訓練管理システムを導入しており、治療・検査、救急医療、看護、介護に必要な基本的技術や機器の使用方法だけでなく、チーム医療のあり方も研修することができます。



模擬病棟での実習

基本臨床スキル演習室

## 05 チーム医療・温かい病院づくり

患者さんとのコミュニケーションにも力を注いでいます。

病院では、様々な職種のメディカルスタッフが働いています。質の高い安心・安全な医療の提供、患者さんの生活の質(QOL)の維持・向上、患者さんの人生観を尊重した療養の実現のために、様々な職種により構成された医療チームがサポートに当たります。患者さんの症状や状態、希望に合わせて、多職種のスタッフが連携を密にとり、それぞれの専門性を発揮した、高度なスキルに基づいた議論を行い、治療計画などを検討し、患者さん一人ひとりに対する「チーム医療」を推進しています。

#### 温かい看護

患者さんとご家族に安心と満足感の持てる心あふれる看護を実現するため、プライマリーナース(受け持ち看護師)システムを採用しています。プライマリーナースが看護の責任者として、チームの一員としていつも患者さんを見守っています。「医療は患者のためにある」の病院理念のもと、高度な知識と技術の習得はもとより、エモーショナル・ヒット(心温まる瞬間)を創り続ける職場風土を築くために、看護師の接遇力の向上を目指して様々な研修を企画・開催しています。



#### 患者さんの回復を食事・栄養管理でサポート

入院患者さんへの食事は、開院以来、当院栄養部が献立づくり、材料の仕入れ、調理、配膳に至るまで、すべて直営で行っています。安心・安全で治療効果があるおいしい食事を提供することを心掛け、患者さんからの満足度も高く、また、患者さんがより早く社会復帰できるよう、栄養サポートチーム(NST)の介入も早期から取り入れてきました。食事管理と栄養管理は高齢化社会を乗り切るために大切なことであり、チーム力を絶やすことなく患者さんのサポートを続けます。



## 06 快適な環境

患者さんのアメニティとプライバシーに十分配慮した居住空間を提供しています。

病棟・外来は、臓器・機能別センターによる構成となっており、センターごとにテーマカラーを設定しています。病室は、ゆとりある個室を中心とした構成で、アメニティとプライバシーに配慮した設計になっています。憩いの場として、ふるさとの森や屋上庭園をご利用いただけます。また、福祉ショップや、書店などもあり、入院中の生活にご不便がかかるないよう配慮しています。



中庭

特別病室

# 川崎医科大学総合医療センター

地域医療支援病院

病床数 647床

入院延患者数 110,879名 (2021年度)

外来延患者数 197,952名 (2021年度)



患者  
中心の安心・  
安全な高度医療を  
提供し、  
地域と共生する  
病院

## 01 地域に密着した医療を提供

### 地域医療連携・地域包括ケアシステムの推進

地域医療支援病院として、地域の医療機関との連携強化に努めるとともに、地域の開業医の先生方と連携・共同して患者さんの治療にあたるための開放型病床を設置し、包括的で一貫性のある医療の提供に努めています。地域医療連携の一環として、画像診断（CT、MRI、PET/CT）及び上部内視鏡検査等の予約システムを導入し、スムーズな検査の予約を図ります。在宅療養支援センターでは、地域の訪問看護ステーションと連携を図りながら、在宅復帰に向けてのサポートを実践しています。

### 地域の健康増進

当院の総合健診センターでは、人間ドック等、積極的な健診活動を通じて、地域の健康増進に貢献しています。また、当院の医師・看護師などのメディカルスタッフを講師として、定期的に健康教室、市民公開講座などを開催し、地域の方々に医療・福祉に関する最新の医療情報を発信しています。



川崎医科大学総合医療センター 病院長

猶本 良夫 Naomoto Yoshio

当院は「川崎医科大学総合医療センター」として、2016年12月1日に新たに開院し現在7年目を迎えております。初代川崎祐宣院長が1938年に外科昭和医院を開業して以来、コロナ禍の現在まで24時間体制で救急医療を担い地域に寄り添って歩んでまいりました。医科大学の附属病院として救急医療、がん医療、脳心血管疾患、生活習慣病に対する医療などを最新の医療機器・設備を用いて提供し、ロボット支援下手術など最先端の高度医療を実践しています。旧川崎病院跡地に建設中の川崎医科大学高齢者医療センター（2023年6月竣工予定）の開院に向けて、急速に進む高齢化に対応すべく認知症学、老年医学の専門診療科も整備しつつ、在宅療養の実践と人材教育に取り組んでいます。これからも、地域に密着した、地域から信頼される医療を提供してまいります。また、医師、看護師などのメディカルスタッフを志す学生の臨床実習を積極的に受け入れ、将来の良き医療人を育成して、医療と教育の分野で地域に貢献してまいります。

### 病院理念

- 医療は患者のためにある
- すべての患者に対する深い人間愛を持つ
- 24時間いつでも診療を行う
- 先進的かつ高度な医療・教育・研究を行う
- 地域の医療福祉の向上と医療人の育成を行う

「地域住民に信頼され安全・安心な医療を提供できる病院」を基本方針とし、「救急医療」「高度専門医療」「リハビリテーション」の3本を柱に、患者さん中心の質の高い先進的医療を提供します。

### 診療科

<b>総合診療科</b>	<b>整形外科</b>	<b>麻酔・集中治療科</b>
<b>救急科</b>	<b>小児科</b>	<b>総合健診センター</b>
<b>内科</b>	<b>心療科</b>	<b>中央検査科</b>
循環器内科	腎臓内科	耳鼻咽喉・頭頸部外科
血液内科	感染症内科	病理科
肝臓内科	老年病内科	眼科
糖尿病内科	内分泌代謝内科	泌尿器科
脳神経内科	アレルギー内科	形成外科
消化器病内科	腫瘍内科	皮膚科
<b>外科</b>	<b>呼吸器外科</b>	産婦人科
消化器外科	血管外科	脳神経外科
血管外科	心臓外科	脳卒中科
乳腺甲状腺外科	小児外科	リハビリテーション科
		放射線科

### 災害拠点病院

令和元年10月に岡山県より災害拠点病院に指定され、災害時における初期救急医療体制の強化および救護班派遣や救援救護訓練を実施しています。また、DMAT（災害派遣医療チーム）を有しております、災害時に被災地へ派遣しています。



DMAT出動前ミーティング

川崎医科大学  
総合医療センターの  
あゆみ

- 1938年 2月 外科昭和医院開業（岡山市富田町）
- 1939年 2月 外科川崎病院開院（岡山市中山下）
- 1950年 8月 財団法人川崎病院設立
- 1960年 3月 総合病院川崎病院開院
- 1968年 8月 財団法人「学校法人川崎学園」設立準備期成会設置認可
- 1979年 7月 設置法人を財団法人川崎病院から財団法人川崎医学校振興財團に変更
- 2011年 4月 学校法人川崎学園へ経営譲り
- 2012年 4月 がん診療連携推進病院認定
- 2015年 6月 地域医療支援病院承認
- 2016年 12月 川崎医科大学総合医療センター開院
- 2017年 10月 日本医療機能評価機構（一般病院2）認定
- 2019年 5月 訪問看護ステーションかわさき開所  
10月 災害拠点病院指定  
11月 居宅介護支援事業所かわさき開所
- 2020年 3月 ISO15189認定  
公認心理師法第7条第2号施設認定  
11月 かわさき訪問介護ステーション開所

## 患者中心の安心・安全な高度医療を提供し、地域と共生する病院

Kawasaki Medical School General Medical Center

02

岡山市中心部で「医療は患者のためにある」という理念に基づき、24時間体制で地域に密着した医療を提供

### 24時間365日診療で救急医療を提供

地域住民が安心して暮らすことができるよう、24時間365日迅速かつ確かな救急医療を提供しています。救急外来には救急患者専用のCTを導入し、3室の重症処置室、初療室を設けており、お断りのない救急医療を目指しています。屋上のヘリポートではドクターへリによる搬送救急患者を受け入れています。

特に、脳卒中や循環器系疾患の患者さんには、専門医により24時間診療を提供しています。脳卒中ケアユニット(SCU)は15床整備し、脳梗塞に対するt-PAと呼ばれる血栓溶解療法、IVRセンターでのカテーテルを用いた脳血管内治療など専門性の高い緊急治療を行っています。急性冠症候群(急性心筋梗塞、不安定狭心症)に対する緊急カテーテル治療など、昼夜を問わず24時間体制で対応にあたります。



## 03 地域の医療ニーズに応える高度な先進的医療を提供

地域医療のニーズを踏まえ、先進的医療に積極的に取り組むと同時に、安全安心な高度専門医療を提供し、医科大学の附属病院として社会的責務を果たしています。

### 高度かつ最先端な手術

大学病院として、専門医による高度かつ最先端な治療・手術を行っています。スポーツ外傷・整形外科、脊椎脊髄外科、小児・女性医療、頭頸部腫瘍診療、内視鏡的な消化器疾患診断治療、斜視等小児眼科など、幅広い疾患に対応しています。



### 急性期リハビリテーションの実施

8階には、理学療法室、作業療法室、5室の言語訓練室を有したリハビリテーションセンター、54床の回復期リハビリテーション病棟及びリハビリテーション庭園を集約しています。同一階に配置することで、早期から積極的なリハビリテーションを実施し、機能回復やQOLの向上を図ります。



リハビリテーション庭園

### 質の高いがん診療の提供

がん診療連携推進病院として、また大学病院として質の高いがん医療を提供しています。PET/CT、MRI、CTなど最新の放射線診断機器を導入し、精度の高いがんの診断に努めています。手術室は12室設けており、手術支援ロボット「ダヴィンチ」を導入するなど、高度ながん手術を実施できる環境を整備しています。放射線治療センターでは最新の放射線治療装置リニアックを導入し、強度変調放射線治療(IMRT)と呼ばれるコンピュータの助けを借りて腫瘍のみに放射線を集中して照射できる革新的な照射技術を用いたがん治療を行っています。20床の通院治療センターでは専門の腫瘍内科医、看護師、薬剤師を配置し、QOLを重視した安全安心な外来での化学療法を行っています。病棟の最上階には18床の緩和ケア病棟を開設し、身体的・心理的疼痛ケアを提供しています。

PET/CT

放射線治療装置(リニアック)

## 04 大学病院として

大学病院として教育・研究体制も整備し、将来の良き医療人の育成に取り組んでいます。



### 総合医の育成

地域医療で求められる全人的医療を行うため、各分野の高い専門性を保ちながらも、各疾患の初期治療とCommon disease(一般的な病気)の診療が行える総合内科医・総合外科医のスペシャリストを育成しています。

### 臨床研修病院・教育病院

臨床研修病院としてプライマリ・ケアにも対応できる医師を養成するとともに、臨床実習施設として看護師などメディカルスタッフを志す学生の臨床実習も積極的に受け入れ、優れた医学・医療技術の教育のみならず人間性豊かな医療人の育成に取り組んでいます。

### 川崎医科大学附属図書館とのネットワーク

教職員・学生の教育・研究の場として図書室を整備しています。約16万冊を有する川崎医科大学附属図書館から、専用オンラインシステムを使い、貸出・返却が可能です。また、オンラインジャーナルの閲覧が可能な環境も整っています。

### 研究ユニットの設置

川崎医科大学中央研究センターの研究ユニットの1つが設置されており、分子生物学を中心とした研究ができる環境が整っています。研究に必要な設備や機器等を中央に集中しており、医科大学として高度な研究を円滑に遂行することができます。

## 05 心に届く看護

患者さん中心のあたたかいケアと、患者さん一人ひとりに最適で質の高い看護を提供しています。



### キラリ輝く実践看護をめざして

質の高いすぐれた看護によって、安心と信頼で全ての患者さんを優しく包み込み、あたたかい心が伝わる看護を提供しています。

## 06 快適な療養環境

病室はゆとりある個室と4人室で構成し、患者さんのプライバシーに配慮した設計になっています。明るく開放的な外来待合や病棟デイルーム等、快適な療養環境を整備しています。憩いの場として、8階と15階に屋上庭園、建物南側には遊歩道を設けた樹木の茂る庭園を整備し、人々が集まり交流できる空間となっています。



# 川崎医療福祉大学

大学 入学定員1,186名

大学院 入学定員102名



新しい時代の要請に応える  
メディアカル・スペシャリスト育成

## 01 医療福祉と健康科学を統合し日本の医療福祉の充実・発展に貢献

「医療福祉」の未来はここから始まる

「医療と福祉は一体でなければならない」、川崎学園の創設者 川崎祐宣の信念は、医師として患者さんの心身の治療だけでなく暮らしにまで心配りする診療の現場から生まれました。そして、「医療福祉」の概念に立つ世界で初めての4年制大学として開学したのが本学です。

## 02 確かな実践力を育む現場主義の教育

臨床経験が豊富で現場を熟知した教員による  
きめ細かな指導

多くの教員が川崎医科大学附属病院をはじめとする医療現場に従事しており、病院での実習のほか、学内の授業も担当しています。豊富な臨床経験に基づき、現場の実際に即して行われる指導を通じて、実践とは何かを学び、現場で使える生きた知識やスキルを身につけることができます。



2つの附属病院をはじめとする施設と連携し質の高い教育を提供

本学と隣接する川崎医科大学附属病院、岡山市中心部にある川崎医科大学総合医療センターという2つの附属病院を中心として、全国各地の施設や病院等で実習を受けられます。実習では、その臨床現場で活躍している医療スタッフが指導に当たり、各分野において充実した学びと実践を実現しています。



川崎医療福祉大学 学長

椿原 彰夫 *Tsubahara Akio*

本学は「医療福祉」という新しい言葉を世にはじめて伝えた大学として設立され、さまざまな医療福祉関連専門職の養成コースを備えています。人類への奉仕を目的とする良き医療福祉人を育成するためには、高い知識や技術はもとより、患者さんや障がい者に対して優しい心と気配り、懇切丁寧な説明能力、チーム医療福祉における連携の力を与えるための専門的な教育が必要です。本学では、その目的を達成するために、川崎学園のネットワークを活用し、実習を重視した専門職養成を心掛けています。また、確実に専門職の資格を取得できるよう、熱意ある教員による懇切丁寧な指導体制を整備しています。

### 大学の理念

#### ひと 人間をつくる 体をつくる 医療福祉学をきわめる

幅広い知識と技能を身につけることにより、医療福祉を総合的に考え、多様なニーズに応えることができる、豊かな福祉社会の創造的担い手を育成する。

#### 医療福祉大学の教育目標

- 健やかな心と体をもつ
- 医療福祉について豊富な知識と技術をもつ
- 人の多様性を理解し、すべての人を敬う
- 高い教養を身につけ、創造的に行動できる
- 国際的コミュニケーション能力をもつ
- ことができる

「医療福祉学」とは、医療福祉の理念を実現するための総合学である。  
「医療福祉人」とは、医療福祉の理念を実践する感性と能力を有する専門職である。

## 03 実践力を育む教育が資格や進路に結実

高水準の資格取得、医療福祉分野への高い就職率

実践重視の教育から生まれる成果は、高水準の国家試験の合格率をはじめとする学生の高い資格取得率にも表れています。また、11年連続で98%を超える高い就職率を維持しており、学生は自分の希望に応じてさまざまな業種・職種への就職を実現させています。就職支援センターや各学科教員による個別指導など、支援体制が充実しているほか、医療・福祉施設などで活躍する卒業生のネットワークも、後輩の育成支援や実習の受け入れなどで実践重視の教育をサポートしています。

## 04 総合教育センターによる教育活動

人間性豊かな医療福祉人への第一歩を踏み出す

良き「医療福祉人」の育成には、医療福祉の専門知識の修得が必須となります。その前段階である初年次教育を「スタートアワー」として位置づけ全学で取組んでいます。さらに、「入学前学習」の実施、入学後の「ラーニングサポートセンター（LSC）」における学修相談や企画講座の提供等、入学前から入学後まで学生が自ら学ぶ環境を整備し、全学的なサポートを行っています。



## 川崎医療福祉大学のあゆみ

- 1990年 12月 川崎医療福祉大学設置認可
- 1991年 2月 校舎竣工  
4月 川崎医療福祉大学 開学  
医療福祉学部（医療福祉学科、臨床心理学科）、医療技術学部（医療情報学科、感觉矯正学科、健康体育学科、臨床栄養学科）設置
- 1995年 4月 医療福祉学部に保健看護学科、医療技術学部にリハビリテーション学科設置
- 1996年 4月 大学院設置
- 2000年 4月 医療福祉学部に医療福祉マネジメント学科、医療福祉環境デザイン学科設置
- 2002年 3月 本館増築棟（東ウイング2）建築工事竣工
- 2005年 4月 医療福祉マネジメント学部（医療福祉経営学科、医療秘書学科、医療福祉デザイン学科、医療情報学科）設置
- 2007年 4月 医療技術学部に臨床工学科設置  
ボランティアセンター開設
- 2008年 4月 大学評価適合認定（大学基準協会）
- 2015年 11月 川崎学園アドミッションセンター開設
- 2016年 4月 看護実践・キャリアサポートセンター開設  
川崎学園3施設（川崎医療福祉大学、川崎医療短期大学、専門学校川崎リハビリテーション学院）合同入試およびオープンキャンパス実施
- 2017年 4月 医療福祉学部に子ども医療福祉学科、医療技術学部に臨床検査学科、診療放射線技術学科設置
- 2019年 4月 保健看護学科（保健看護学科）、リハビリテーション学部（理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚療法学科）設置

卒業生数 22,409名(2022年5月1日現在)

# 高度な専門技術を身につける 充実の5学部17学科

Kawasaki University of Medical Welfare

## 医療福祉学部



### 医療福祉学科

多様化する疾病や障がいのある人々の特性を理解し、医療に強い実践力のあるソーシャルワーカーを育成



### 臨床心理学科

国家資格「公認心理師」教育にも対応し、保健医療、福祉などの多様な分野で活躍できる、心温かく豊かな人間性を備えた心理専門職を育成



### 子ども医療福祉学科

病児・病後児、発達障がい児を含むあらゆる子どもと保護者を支援できる、医療・保育・幼児教育・ソーシャルワークに強い保育士・幼稚園教諭を育成

## 保健看護学部



### 保健看護学科

人々の健康を包括的にとらえ、科学的根拠に基づいた知識と技術を用いて人々の幸せに貢献する専門性の高い実践力のある看護師を育成

## 医療福祉マネジメント学部



### 医療福祉経営学科

社会的動向や医療福祉政策等に関する視点とともに、医療福祉施設運営や経営管理等の視点を備えたマネジメントの専門家を育成



### 医療情報学科

情報科学の知識・技術を生かし、診療情報管理士、医療情報技師として医療を支援する専門家を育成

## リハビリテーション学部



### 理学療法学科

保健や医療、福祉など様々な分野で、利用者や患者、障がいの方々に貢献できる理学療法士を育成



### 作業療法学科

専門知識と技術をもって対象者に寄り添い、作業を通して対象者の「その人らしい」生活の実現に貢献できる作業療法士を育成



### 言語聴覚療法学科

言語発達やコミュニケーション、食べることの障がいに対して適切な支援を行える専門性の高い知識、優れた臨床技術を備えた言語聴覚士を育成



### 視能療法学科

視覚障害の検査や症状の分析を正しく行うための高い専門知識と臨床技術、問題解決能力を備えた人間性豊かな視能訓練士を育成



### 医療秘書学科

医師を補佐する高度な専門知識・技能を備えたクリニカルセクレタリー・医療専門職をサポートして医療サービスの円滑化を図る人材を育成



### 医療福祉デザイン学科

医療福祉の現場で、デザインの力を応用して、利用者の視点に立った環境整備や円滑なコミュニケーションを、ことばと共に形で提案し実践できる人材を育成

## 医療技術学部



### 臨床検査学科

高度化する現代医療が求める検査法・検査サービスの多様性に応じて自己研鑽力を發揮し、かつ倫理観を備えた臨床検査技師を育成



### 診療放射線技術学科

最新医療に対応できる専門的かつ実践的な知識と技術を身につけた、技術革新の進歩に対応することができる診療放射線技師を育成



### 臨床工学科

医学と工学を基礎とする臨床工学の知識・技能と、科学的思考力および医療従事者としての倫理観を身につけた臨床工学技士を育成



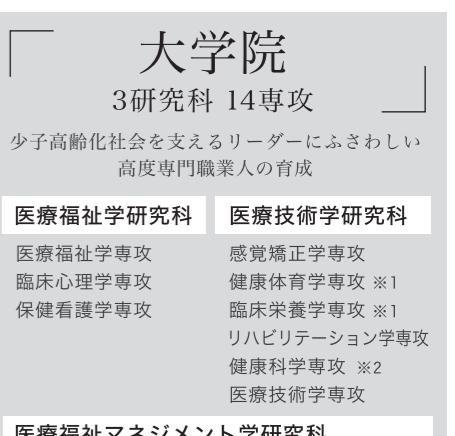
### 臨床栄養学科

臨床栄養学の高い専門性を生かし、医療福祉分野において全人的な栄養管理を実践できる管理栄養士を育成



### 健康体育学科

健康学、体育学、医学の専門知識を学び、科学的な健康・体力づくりの推進役として幅広いライフサイクルにおいて活躍できる健康運動指導士・救急救命士等を育成



### 大学院

#### 3研究科 14専攻

少子高齢化社会を支えるリーダーにふさわしい高度専門職業人の育成

医療福祉学研究科	医療技術学研究科
医療福祉学専攻	感覚矯正学専攻
臨床心理学専攻	健康体育学専攻 ※1
保健看護学専攻	臨床栄養学専攻 ※1
リハビリテーション学専攻	リハビリテーション学専攻
健康科学専攻 ※2	健康科学専攻
医療技術学専攻	医療技術学専攻

医療福祉マネジメント学研究科
医療福祉経営学専攻 ※1
医療秘書学専攻 ※1
医療福祉デザイン学専攻 ※1
医療情報学専攻 ※1
医療福祉マネジメント学専攻 ※2

※1：修士課程のみ ※2：博士後期課程のみ

# 川崎医療短期大学

看護学科／医療介護福祉学科 入学定員170名



より豊かな人間教育をめざして

## 01 専門知識・技能修得に特化された特長ある2学科編成

看護学科 修業年限3年

### 的確かつ柔軟な実践力と教養を身に付けた看護師を養成

本学科は開学以来の伝統を受け継ぎ、実践的看護師の養成学科として高い評価を得ています。臨床経験豊富な教員との心通い合うきめ細やかな指導体制に基づき、看護を提供するための根拠となる基礎的な知識と技術を学びます。確かな実践力と教養を身につけ、高い倫理観をもった、時代のニーズに応えられる質の高い看護師の養成をめざしています。



医療介護福祉学科 修業年限3年

### 医療に強い介護福祉士を育成

病院や福祉施設において、介護福祉士の役割は多様です。介護の現場では医療と介護の連携は必須であり、医療知識を備え、チーム医療で活躍できる「医療に強い介護福祉士」の養成が社会に求められています。本学科では川崎学園の関連施設との連携の下、介護福祉士の養成施設として全国に先駆けて病院実習を導入し、専門知識と確かな技術を修得することに加えて、温かい人間性を兼ね備えた医療に強い介護福祉士の養成をめざしています。



川崎医療短期大学 学長

秋山 祐治 Akiyama Yuji

川崎医療短期大学は、卒業後直ちにチーム医療の場で活躍できる高度な専門知識と技術を持ち、豊かで幅広い教養を身につけた専門技術者の養成をめざして1973年に開学しました。

爾来、幾度かの改組転換を経て、現在は、看護学科・医療介護福祉学科の2学科を擁する短期大学として特色ある実践教育を行っています。懇切丁寧な教職員、最新の教育・設備、学園内施設及び関係施設との密接な連携、明るく縁あふれる校舎棟など、他学に類を見ない教育環境を提供しています。本学で学んだ学生は、ほぼ全員が国家資格試験に合格し、専門の知識・技術を生かした職場に就職しています。開学以来の卒業生は、実に16,000人を超え、全国各地で活躍し、高い評価を受けています。

### 大学の理念

ひと

## 人間をつくる 体をつくる 医療福祉学をきわめる

深い専門知識と技能をもち、幅広い知識を身につけた、心優しく人間性豊かな看護師・介護福祉士を養成する

### 川崎医療短期大学の教育目標

- 健やかな心と体をもつ
- 医療福祉の専門的知識・技能を身につける
- 自ら学び続ける精神をもつ
- 多様な人々を理解し共感する心を育む
- 医療福祉人としての高い倫理観と責任感をもつ

## 02 学園連携ならではの充実した教育環境

川崎医科大学附属病院・川崎医科大学総合医疗センターなど、川崎学園ネットワークを生かし恵まれた実習環境の中で実践力を養います。また、2022年4月より、岡山キャンパス・川崎医療短期大学新校舎棟での教育が始まりました。新校舎棟は鉄筋コンクリート地上4階建て、大講義室には最新のAV機器を完備しています。その他に、最新のシミュレータ教材を導入した実習室、多目的に利用できる大小の自修室、広々とした学生ラウンジを配置し、新たな教育環境を提供しています。



## 03 担任制によるきめ細かいサポート

臨床経験豊富な教員による指導や、担任制による個別の学習指導・生活指導・就職指導・進学指導などを継続的に行ってています。このような、一人ひとりへの心温かい教育と手厚い指導は国家試験の高い合格率や就職実績に直結しています。



### 川崎医療短期大学のあゆみ

1973年	2月 川崎医療短期大学設置認可
4月	川崎医療短期大学開学 (第一看護科、第二看護科、臨床検査科設置)
1977年	4月 放射線技術科、医療秘書科設置
1983年	4月 栄養科、通信教育部(医療秘書科)設置
1988年	4月 医用電子技術科設置
1991年	4月 栄養科募集停止
1994年	4月 医用デザイン科設置
1999年	4月 医用電子技術科を臨床工学科に学科名変更 12月
2000年	4月 医療秘書科、医用デザイン科、通信教育部(医療秘書科)募集停止
2001年	4月 介護福祉科設置
2005年	4月 医療保育科設置 第二看護科募集停止
2007年	4月 第一看護科を看護科に学科名変更 臨床工学科募集停止
2012年	4月 介護福祉科を医療介護福祉科に学科名変更
2017年	4月 臨床検査科、放射線技術科、医療保育科募集停止
2021年	4月 医療介護福祉科3年制に移行
2022年	4月 岡山キャンパス校舎棟新設 看護科を看護学科、医療介護福祉科を医療介護福祉学科に学科名変更

卒業生数 16,122名(2022年5月1日現在)

川崎リハビリテーション学院  
のあゆみ

- 1974年
- 3月 理学療法士および作業療法士養成施設として厚生大臣から指定認可  
川崎リハビリテーション学院設置認可
- 4月 川崎リハビリテーション学院開校（理学療法学部（現理学療法学科）、作業療法学部（現作業療法学科）設置）  
第1回入学式
- 1977年
- 3月 第1回卒業式
- 1979年
- 7月 設置法人を財団法人川崎病院から財団法人川崎医学振興財団に変更
- 1999年
- 3月 専門学校川崎リハビリテーション学院に改称認可
- 2006年
- 4月 設置法人を財団法人川崎医学振興財団から学校法人九曜学園に変更
- 2015年
- 4月 リハビリテーション教育評価認定（一般社団法人リハビリテーション教育評価機構）

卒業生数 2,140名(2022年5月1日現在)

# 専門学校 川崎リハビリテーション学院

理学療法学科／作業療法学科 入学定員65名



専門学校 川崎リハビリテーション学院 学院長

花山 耕三 Hanayama Kozo

川崎リハビリテーション学院は1974年に医学的リハビリテーションの専門職としての理学療法士・作業療法士を養成し、医学界並びに社会へ貢献することを目的として設立され、今日までに2,000名を超す有為な理学療法士・作業療法士を世に送り、卒業生は各施設で指導的な立場に就いて活躍しております。また、川崎医科大学・同附属病院・同総合医療センター・川崎医療福祉大学・川崎医療短期大学と同じ川崎学園内に属しており、素晴らしい環境の中、医科大学をはじめとした優秀な教員による手厚い教育と研修を通して、より豊かな人間性を有する実力のある理学療法士・作業療法士の養成をめざしています。

## 学院の理念

### ひと 人間をつくる 体をつくる 医療福祉学をきわめる

真に実力をもち、人間性豊かな、優れた理学療法士・作業療法士を養成する

#### 川崎リハビリテーション学院の教育方針

- 人間性豊かな理学療法士・作業療法士を養成する
- 健康な心身と旺盛な活動力を備えた理学療法士・作業療法士を養成する
- 自ら学びつづける理学療法士・作業療法士を養成する

## 01 リハビリテーションのパイオニアとして優秀な技術者を養成する2学科

理学療法学科 修業年限3年

**充実した実習で知識・技術と人間性を兼ね備えた理学療法士を育成**  
身体に障がいのある人に対して、主に基本的な動作能力の再獲得をめざして、運動療法、物理療法、日常生活動作練習のスキルを学びます。  
確かな知識と質の高い臨床実践能力を有するだけでなく、燃えるような探求心と愛あふれる豊かな人間性を持った治療者を育てることを目標としています。



作業療法学科 修業年限3年

**豊富な実習で質の高い作業療法士を育成**

身体又は精神に障がいがある人に主体的な生活の獲得を図るため、諸機能の回復、維持及び開発を促す作業を学びます。作業療法士に必要な人間への興味や思いやりを身につけるとともに、具体的な援助として実施するために必要な知識と技能を習得し、さらに、自ら学ぶ向上心を育てます。

## 02 医科大学附属病院隣接という最適で他に類のない実習環境

1年次から、同じ建物内にある附属病院での「臨床見学実習」を行い、座学を実践力へつなげる基礎をつくります。2年次は、入院中の患者さんに対して、指導者のもとで検査や治療を行います。3年次は、多くの実習施設の協力のもと、合計19週間の臨床実習を行います。



## 03 障がい者支援体験を通して育む“思いやりの心”

教育の一貫として、川崎学園祭で障がいがある方の受け入れを担当し、また、岡山県障害者スポーツ大会にボランティアとして参加します。これらの体験を通じて、思いやりの心を育みます。



少人数指導の充実

臨床実習で、少しでも疑問に思ったことを、実習グループの仲間（2～3人）と担当教員に質問。少人数での細やかな指導が充実しています。

# 幼保連携型 認定こども園 かわさきこども園

開園 2018(平成30)年4月



医療福祉分野での専門性を  
活かし大切に育てます

## 健やかな成長を支援

地域の子どもたちがより豊かに育っていける環境づくりに貢献します。また、子どもたちに寄り添い、本園の目標にそって健やかな成長を支援します。さらに、自園調理による完全給食を実施し、すべての園児に安全でおいしい給食を提供しています。



定員

1号認定（幼稚園部門：3歳以上）	24名
2号認定（保育園部門：3歳以上）	60名
3号認定（保育園部門：3歳未満）	30名



## 実践を学ぶ実習施設

こども園の南側には川崎医療福祉大学が隣接しており、医療福祉分野を目指す学生が子どもたちとの関わり方を学ぶ実習施設にもなっています。実際の現場において、学内で学んだ理論を実践していきます。

# 現代医学教育博物館

開館  
開館時間  
休館日

1981(昭和56)年  
月曜日～金曜日 9:00～17:00、土曜日・日曜日 9:00～16:00  
祝日、学園創立記念日(6月1日)、年末年始(12月29日～1月3日)

当館は、1981年に川崎学園創立10周年記念事業の一つとして開館しました。現代の医学・医療に関する教育を目的とした博物館として、世界的にも珍しい博物館です。2階「健康教育博物館」は主に学生や一般に向けて公開しており、4階は医療関係者向けたより専門的な展示を行っています。



## 百聞は一見に如かず 百読は一見に如かず

川崎学園創設者 川崎祐宣の開館理念のもと「本物に触れる」「体験する」展示を多く取り入れており、豊富な実物標本をはじめ、精巧な模型、美しいグラフィック、実際の医療器具を使った擬似診療体験コーナーなど、わかりやすく効果的な学習ができる内容になっています。また、医学教育の一環として、県内小中高校への出張授業も行っています。



## 4階展示室

※医療関係者のみの公開

臓器本来の色が再現された実物標本を約1,700点展示しており、あらゆる疾患の病変を観察することができます。



## 胃の巨大模型

高さ3m・幅5mの巨大模型で、胃の中に入ったかのような感覚を楽しめます。模型を使った内視鏡検査も体験できます。



## 内視鏡下手術体験

実際の手術器具をモニター越しに操作して臓器の病変などを摘出することができます。



## 地域貢献



## 県内小中高校への出張授業

実聴診や模擬手術など様々な医療体験を盛り込んだ授業は、多くの学校で好評を博しています。



## かわさき夏の子ども体験教室

当館を主会場に小中学生を対象として、手術の模擬体験、病院見学などを通じて、医療・福祉に関する興味や関心を高め、将来の学びへのモチベーションを向上させることを目的としています。2009年から始まった夏の人気イベントです。

# 川崎学園と旭川荘

1956年 財団法人旭川荘設立認可（岡山県）  
1959年 社会福祉法人旭川荘設立認可（厚生省）

旭川荘（岡山市北区祇園）は、「敬天愛人」一天を敬い人を愛する人間尊重の精神を機軸に総合医療福祉施設をめざし、1956(昭和31)年、川崎学園創設者 川崎祐宣により創設されました。



旭川荘全景

現在、岡山県と愛媛県において、障がい者福祉、高齢者福祉、児童福祉、医療、相談支援等の各種サービスを展開しています。施設数は80を超えており、利用者数はおよそ2,500人、職員約2,200人で構成されています。

各施設を訪問されるボランティアは毎年1万人余、海外からの研修生、留学生も積極的に受け入れており、アジアの医療福祉の発展に大きく貢献しています。

また、川崎学園各校（医科大学・医療福祉大学・医療短期大学・附属高校・リハビリテーション学院）の学生たちにとって、旭川荘での見学実習や関連学科の現場実習、あるいはボランティア活動は、修学の動機を明確にするとともに各自の専門性をより深く学ぶ場となっています。



利用者と実習生の散歩風景

## 「医療福祉施設」旭川荘の創設

### 医学を中心とした明るい社会福祉施設を

「医療福祉施設」旭川荘の構想は、川崎学園創設者 川崎祐宣が医師として日々患者と接する中から生まれました。

川崎祐宣は、岡山医科大学（現在の岡山大学）を卒業、市民病院に勤務した後、岡山市内に外科医院（後の総合病院川崎病院、現在の川崎医科大学総合医療センター）を開院します。多くの患者に接する中で、障がい者や高齢者に適切な医療的ケアや教育が行われていない現状に気付き、医師・病院として止むに止まれぬ思いから、医療と福祉を組み合わせた「医療福祉」の必要性を感じるようになりました。そして、全国に先駆けて1956年（昭和31年）財団法人旭川荘を創設し、翌年には肢体不自由児施設「旭川療育園」、知的障がい児施設「旭川学園」、乳児施設「旭川乳児院」を開設し出発しました。

「医学を中心とした明るい社会福祉施設を」という川崎祐宣初代理事長の念願は、江草安彦第2代理事長（川崎医療福祉大学初代学長）、そして末光茂現理事長に引き継がれ、今も脈々と受け継がれています。



手術中の川崎祐宣院長、川崎病院時代

### 生涯教育

## KAWASAKI CLUB

発足  
会員数  
TEL

2007(平成19)年9月  
約53,900名（2022年5月1日現在）  
086-464-1546

学園では、生涯学習・生涯教育の場として、また学園からの最新情報を発信していく場として、「KAWASAKI CLUB」を設置しています。



会員はKAWASAKI CLUBラウンジに加えて川崎学園内の図書館を利用することができます。私たち医学・医療福祉学に携わる者は、日々新しい知識の習得や研鑽が欠かせません。附属図書館（川崎医科大学、川崎医療福祉大学、川崎医療短期大学）への来館利用のほか、学園内および他機関に所蔵している文献を取り寄せ、郵送でお届けするサービスを実施しております。最新の医学・医療福祉学に関する情報を得る場として活用されています。



本館棟8階のラウンジから附属病院外来中庭を望む



KAWASAKI CLUB カード



KAWASAKI CLUB NEWS

# 学園施設紹介

Facility Guide

## 西日本随一の規模を誇る川崎学園施設

「人間をつくる体をつくる 医学をきわめる」という建学の理念のもと、美しい自然に囲まれた理想的な環境の地に開学し、医学・医療福祉学の総合学園として発展しています。



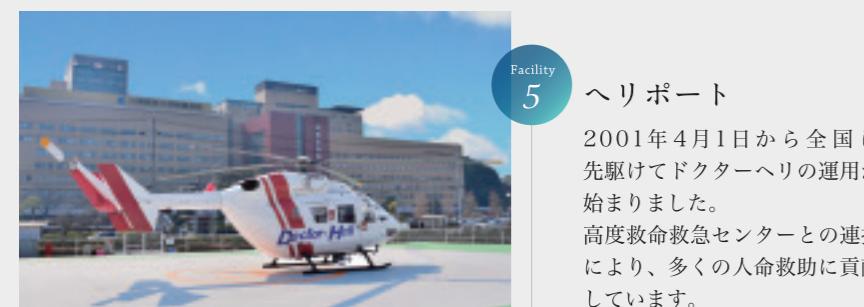
### 川崎祐宣記念講堂

医学・医療・医療福祉に生涯を尽くした学園創設者川崎祐宣を記念した講堂です。1,500名収容。学術的な催しを中心に、市民公開講座など広く利用されています。



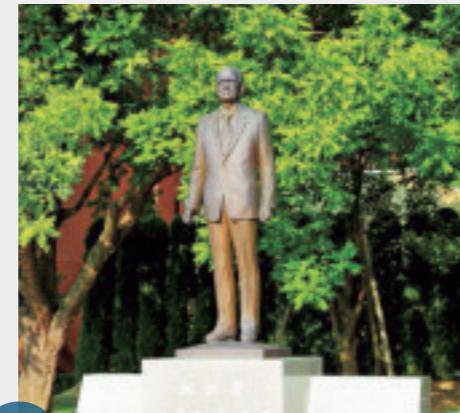
### 川崎祐宣記念ホール（総合医療センター内）

総合医療センター 2階にあり、240名収容。主に市民公開講座やイベントを中心に使用されています。



### ヘリポート

2001年4月1日から全国に先駆けてドクターヘリの運用が始まりました。高度救命救急センターとの連携により、多くの人命救助に貢献しています。



Facility  
1

### 学園創設者 川崎祐宣 銅像

医科大学前の芝生庭園から、学園を見守っています。台座には故人が好きだった言葉「天に星、地に花、人に愛」という自筆の文字が刻まれています。



Facility  
3

### 川崎祐宣メモリアルギャラリー

川崎祐宣の生涯と医学・医療・医療福祉に係る業績をパネルで紹介しています。人のために生きることの大切さを身をもって教えた生涯を写真と年表でたどることができます。



Facility  
6

### ふるさとの森

学生たちが恵まれた自然環境の中で育つことを願い、約23,000m<sup>2</sup>の敷地に全国の県木・市木が植えられています。心の支えとなるふるさとを思い出してもらおうと、「ふるさとの森」と命名されました。遊歩道が整備されており、車椅子でも季節を彩る木々や草花が楽しめます。



Facility  
7

### 川崎医科大学高齢者医療センター（2023年9月開院予定）

岡山市中心部の旧川崎医科大学附属川崎病院跡地に「川崎医科大学高齢者医療センター」を新設します。高齢者医療センターでは、「老年症候群」や「認知症」の症状に対して、多職種と連携し、その人にあった適切な診療を行います。また、在宅復帰に向けたりハビリや、在宅復帰した後の在宅療養を支援する病院として、併設する訪問看護や訪問介護等と連携し、高齢者が住み慣れた場所で自分らしい暮らしが継続できるよう支援します。そして、高齢者総合診療医や連携する多職種を育成する新たな教育・実習の拠点となる役割を担い、地域医療に貢献することを目指します。



Facility  
9

### このはな寮

川崎学園学生寮「このはな寮」が2019年9月に開寮しました。10階建て全514室、全室家具付き。管理人による24時間安心サポートと万全のセキュリティーシステムを採用しています。安心・安全な生活ができる場で勉学に励み、寮生活をする中で自律心や他人への思いやり、協調性を育みます。



Facility  
10

### 中山下レジデンス

2023年2月に川崎学園学生寮「中山下レジデンス」が完成しました。岡山市中心部、川崎医療短期大学から徒歩3分、また岡山駅まで10分（バス・電車）という好立地です。9階建て、完全個室の全72室で管理人も常駐しており、充実した学生生活をサポートします。



川崎医科大学、川崎医療福祉大学、川崎医療短期大学の図書館は、医学・医療福祉学に関する図書を中心に、あわせて約41万冊を所蔵しています。また、電子的資料の収集、マルチメディア環境の整備を進め、学修、研究活動を支援しています。



川崎医科大学／ヒポクラテスの本棚



川崎医療福祉大学／OPACコーナー



川崎医療短期大学／閲覧室



Facility  
8

### 川崎学園総合グラウンド

建学の理念の柱の一つである「体をつくる」環境を充実させるため、2015年3月に竣工。全天候型舗装400mトラック（6レーン）、サッカーやラグビー等に使用できる人工芝のインフィールド、夜間照明6基を備えています。



Facility  
11

### 総合体育館

2019年3月に全面リニューアルしました。メインアリーナは、採光窓、コートライン等の一新に加え、舞台・音響設備も充実。地下1階のサブアリーナは機能性やデザイン性も高く、より快適に運動が楽しめる空間となっています。





学校法人  
**川崎学園**

〒701-0192  
岡山県倉敷市松島 577 番地  
TEL:086-462-1111(代表)